

神戸に新工場、事業強化へ

工場廃液処理装置等の拠点に

コンヒラ



ポートアイランドに建設した新工場

船舶用機器等の製造・販売を展開するコンヒラ(愛媛県今治市、山本太郎社長、神戸支社・☎078・332・2130)は、神戸市のポートアイランド第2期製造工場用地に新工場を建設、12月24日から稼働開始する。これまで神戸支社にあった工場廃液のろ過処理装置や廃油再生処理装置の開発・設計部門と本社の製造部門を移転

集約する。交通アクセスの良さを生かして、陸上向け環境装置の事業強化を図る考えだ。新工場は2階建てで、敷地面積1615平方メートル(延べ床面積1028平方メートル)。土地取得と工場建設の費用は計3億5000万円となった。陸上向け環境装置の開発・製造に特化しており、船舶用機器については造船業が盛んな今治市の本社工場で生産を続ける。

陸上向けの主力商品は、工場廃液の蒸発・濃縮装置や廃溶剤の回収装置など。船舶用機器の製造で培ったノウハウを強みとし、オーダーメイドで開発を行っている。山本社長は、「価格面や既存装置との組み合わせなど、ユーザーの要望に柔軟な対応が可能。顧客の多い関東や関西へアクセスしやすい神戸に開発拠点を設けることで、実際に装置を見てもう機会も増えるメリットがある」と話す。

同社は1973年の創業以来、船舶用機器の製造・販売で実績を伸ばしてきたが、近年では自動車関連企業などからの受注が増え、陸上向け環境装置の売上高比率が4割に高まっている。新工場の稼働により、開発設計の効率化・迅速化や人材確保、市場調査を進め、年間2億円の売上増収を見込む。また、5年後をめどに船舶と陸上合わせて年間売上40億円を目指し、うち半分を陸上向けで占める方針だ。